

コミュニティふらっと本天沼の運営に関する地域懇談会 (第5回)

地域の認知度アップのための取組
(コミュニティふらっと本天沼の発信力
・アイデンティティー等) 説明資料

目次

1. これまでの話し合いより・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P.2
2. ご意見を踏まえた認知度アップの取組の方向性（案）
・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P.5
3. 既存コミュニティふらっとの取組・・・・・・・・・・・・・・・・ P.6

1. これまでの話し合いより

テーマ①ラウンジの活用方法（第2回）

平面図を示し、既存コミュニティふらっとの取り組みを紹介。

【主なご意見】

- ・ラウンジでコミュニティふらっとの温かみを伝えられるようにしたい。
- ・人が集まり、つながり合うきっかけが作れるとよい。
- ・本施設は高齢者の利用が多くなると想定される。
- ・子どもの居場所づくりは必要である。
(学習支援などでは、対応する人材の確保も大切)

1. これまでの話し合いより

テーマ②地域の特性を踏まえた運用（第3回）

人口データ、地域分布図、小中学生・高齢者の状況を既存調査結果から提示。

【主なご意見】

高齢者について

- ・ 高齢者の状況調査結果にある「趣味はないが、地域活動に参加したい」という人は、限られた部屋の中での活動となる高齢者団体には所属しないのではないか。
- ・ メンバーが減少している高齢者団体もあり、高齢者同士の交流も大事。

子どもについて

- ・ 自由にできる場所がコミふら内にあるといい。
- ・ 乳幼児は、子ども・子育てプラザや児童館に行ってしまう。
- ・ 高学年～中学生は児童館に行かず、家に自分の部屋がないこともあり、ラウンジでの勉強や居場所づくりができるといい。
- ・ 防災について、体験や地域貢献の機会があるといい。

1. これまでの話し合いより

テーマ③多世代交流の場所として必要な取組（第4回）

身近な地域のコミュニティ形成の場として既存コミュニティふらっとの取組みを紹介。

【主なご意見】

- ・利用者や利用者団体が、自分の得意分野を活かした取組みができるとよい。
- ・イベントを開催し、非常時に声を掛け合えるような顔見知りを作る取組みがあるとよい。
- ・地域団体や近隣施設（特養・学校等）とのネットワーク構築ができるとよい。

2. ご意見を踏まえた認知度アップの取組の方向性（案）

- 乳幼児・・・・・・・・近隣施設との連携
- 小中高校生等・・・・子どもが来やすいような居場所づくり、ボランティアの誘い
- 社会人・・・・・・・・週末利用が中心か。
魅力的な余暇を過ごせるような取り組み
- 高齢者・・・・・・・・新たな利用者呼び込む視点

3. 既存コミュニティふらっとの取組

認知度アップにつながった事例①

- イベントでは小学生を対象とした企画を考え、中高生はボランティアとして参加してもらうなど、子どもの関心に合わせて、各々楽しんでもらうようにした。その結果、イベント後は施設利用者が増えた。

認知度アップにつながった事例②

- キッズダンスクラスを開講したところ、参加者が増えている。子どもたちの活動中には、親同士の交流も生まれている。発表会には祖父母・父母も来館し、広い世代にコミふらを知ってもらうきっかけとなっている。

3. 既存コミュニティふらっとの取組

認知度アップにつながった事例③

- 利用者への声掛けや会話を大切にし、施設に居心地の良さを感じてもらえるように接している。
近隣高齢者のおしゃべりの場や高校生の勉強する場所などとして、利用者が思い思いに過ごしている。
気に入ってくれた利用者が友人や家族を誘い、施設の利用が広がっている。

認知度アップにつながった事例④

- 子どもが学校でコミふらを紹介したことがきっかけであったが、学校や交番で、何かあったら立ち寄れる場所としてコミふらを紹介してくれるようになった。
友達や親との待ち合わせや雨宿りとして利用されることも多い。

3. 既存コミュニティふらっとの取組

その他の取組例

- コンサートのチラシを隣の町会にポスティング
- 施設前にイーゼル案内（写真付き）
- 施設として、学校運営協議会や子育てネットワークに参加
- 中高生ボランティア、職場見学会の受け入れ
- ラウンジでの団体紹介、メンバー募集